

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームかやのみ(夕日の家)	評価実施年月日	平成20年2月25日
評価実施構成員氏名	富谷 算子 今井 聡		
記録者氏名	富谷 算子	記録年月日	平成20年2月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の基本理念は ①一人ひとりが海と山に囲まれて自分らしい生活が過ごせるようにかやのみはみんな で支えあいます。②一人ひとりの誇りや個性を尊重し明るい生活楽しめるようにか やのみはみんな で支えあいます。③一人ひとりの歴史や思い出を大切に、心豊かな暮らしを送れる 様にかやのみはみんな で支えあいます。④一人ひとりの新しい故郷としてかやのみは笑顔であたたかく 応援いたします。この4つの柱からなる理念を事業所の方針として遂行しております。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念及び諸規定については、全職員が共有できる様に毎朝のミーティングや定例の 全体会議で話し合いを行い実践に取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>地域の信頼感を持ってもらうために運営理念や役割について理解をしてもらうことが 大切と思われる。従って、町内会や職員の社会参加などの機会には積極的に啓発、 広報に努め理解を得る努力をしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>幼稚園、小中学生やボランティア活動を積極的に受け入れる事で地域の方々と交流 ができ、入居者も随時楽しい一時を過ごされている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>職員が町内会の班長を受け入れたり、町内の催事に参加し楽しんでいる。又、俳句 等の趣味の会への参加者もお子様々な交流を実施している。</p>		
<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の住民の方々の力が大きく行事など支えて頂き助けられる事が多い、お礼とし てホーム主催の映画会を低料金で開催している・又地域の方々を対象とした「かやの み祭り」を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎日のミーティングや定例の主任以上の会議並びに全員ミーティング時に検討し、評価を基にした改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営会議を計画的に開催し運営やサービス取り組み状況を報告している。積極的に地域の声を吸収し反映の場としている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	各種の研修や学習の案内ありスタッフは積極的に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。又ホームとしても町担当者にも理解、支援頂くよう随時働きかけている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	施設では研修会や講習会へ積極的に参加し制度を理解出来る様勤めている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待は理由の如何を問わず絶対許されない事であるので虐待によって受ける入居者の精神的、身体的苦痛の意味について関連法の学びを深めると共に日常的な職員間の話し合いの中で虐待防止の徹底を図っている		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時利用者家族へは解りやすく説明し同意に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>随時相談に対応し社長、所長も含め全職員と問題を共有しよりよい方向に持って行く体制をとり改善に努めている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月「かやのみ」通信、おこづかい帳のコピーを家族に送付しTELで近況報告を行い面接時にも随時報告している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を設置し会議において積極的に意見交換を行っている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定例ミーティングは随時職員から意見を聞き運営に反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>家族の来所に合わせ休日の勤務に管理者が必ず在所している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>入所者へのサービスが低下することがないように随時職員(パート)を補充し勤務体制に万全を期している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各種福祉係資格取得の為に希望休を取らせ資格取得の後押しをしている。又働きながら取得できる様に経費の助成や勤務体制を配慮している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部からの見学等を積極的に受け入れる体制を作っている。又行政主体のケア会議や勉強会に積極的に職員に参加するよう促している。地域に同業者はいないが、旭川市、稚内市等の同業者を随時訪問し勉強会の機会にしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の行動や表情、発言、体調等に配慮し状況に応じた勤務内容に変更する等している。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	働きやすい、勤務時間、勤務体制を取り臨機応変に対応出来る体制作りを行なっている。又運営者と職員の関係だけでなく人と人の交わりをとし向上心の一層の発意を行なっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所時に必ず主任以上の職員が対応し本人の訴え等を聞き、必要な場合は職員による検討を踏まえて、不安を軽減できる様に対応している。	○	随時コミュニケーションを図る事で心配事や訴えを聴くようにしている。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所時より管理者が家族からの意向を聴いている。又、訴えの内容によっては、運営者の意見も聞き真摯に対応している。	○	面会や電話等で何時でも家族からの意向を聴きケア内容に反映させている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入所前の面談において本人の状況把握と家族の訴えを聞くことにより、現在どんなサービスが必要か施設としてどんなサービスを提供するかを考え入所後のプランに反映させている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入所時に寂しい思いをさせぬよう積極的に関わりを持ち、家族にも面会や電話の対応等入所者の精神的な支えになれるよう家族と連携し支援をしている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>入所者と一緒に料理作り等をする事により今までの経験を生かし、職員も学べる場面を作り楽しみながら作業することで時間の共有を計っている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時に必ず現況報告し家族の要望を合わせて聴くよう支援している。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>入所時に家族より入所者の情報を聞きながら家族関係を探り、さらに面会時にも積極的に構築出来る様支援している。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会や外出は家族、友人、知人の同伴があれば自由に行える。又外出先まで職員が送迎することもある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ホームにおける日常生活では利用者同士は共に笑ったり、共に心配し合う家族のような関係が保たれている。今後とも一人ひとりの支え合いや関わり合いを大切にするよう関係維持に努めていきたい。	○	近郊にある温泉施設を年に二回日帰りで巡りたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	事情があって退去した入所者にあっても本人や家族とは近況や体調の事など随時手紙や電話をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望や訴えは拒否しないことを基本にしています。従ってね個人の意志や内在する意向については日常的なコミュニケーションによって把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	楽しい思い出、苦しい思い出等一人ひとりが過ごしてきた歴史や環境は心の宝物であるので出来る限り本人や家族に話してもらいサービスの向上に役立てている。	○	家族の理解や協力を得て一人ひとりの半生期をつづる写真集の製作をしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人の心身状態の把握については、全ての職員が最も気を使っているところです。朝、昼、夜の職員交代時の引継ぎの際にも適切な報告をしながら安全安心に配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画については、介護支援等問題が中心となってチームをつくり、本人、家族などと十分話し合いを深めながら利用者本位の計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況を把握し状況変化に合わせて随時カンファレンスを行いケアプランを変更している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の日課、状況を書き少しで変化があれば別冊のノートに書き共通の理解をもって実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入所者が入院した場合においては洗濯等日々面会に行き、長期入院になり退所しても家族で対応できない所は施設で対応してきている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	カラオケサークルや茶道などといったボランティア活動を広く受け入れ入所者に楽しんでもらう体制をとると共に夏祭りといった大イベントには地域住民を含め広く協力している。また行政や警察署なども緊密な連携をとっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在他のサービスを利用している方はいないが利用者の立場に立った柔軟な対応を考えている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域ケア会議の場で情報を共有しそれ以外の場面でも個々に相談するなどしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師と24時間連絡を取れる体勢をとり少しの変化でも連絡。相談し医療機関の受診に結び付けている。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>受診時に医師に相談し投薬の変更や状況説明につとめ特に専門医に受診する際も添書を貰うなど医師同士の連携が密に運ばれるように留意し入居者の治療に勤めている。</p>		
<p>○看護職との協働</p> <p>45 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>施設として看護職を採用しており、入居者の日常的な健康管理には万全を期している。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者が入院した時は毎日のように面会し、本人の状況の把握や、医師から病状について説明を受け、早期退院出来る様に情報交換や相談に努めている。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>47 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>ターミナルケアの施設としての考え方を家族にも書面や口頭で説明し共有している。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>施設としては最後まで看取るという位置づけをしておるが、入居者の立場に立って「出来ることと、出来ないこと」について病院と十分連携をとりながら進めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>生活の場が変わることへの不安を解消するため居宅の移動の際には、家族、本人と十分な話し合いや情報交換をしながら住み替えによるダメージやストレスを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの確保は基本条件であることを職員に徹底している。一人ひとりの誇りや人格の尊厳には十分配慮しており、全職員へも徹底している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりが自己決定の自己表示できるよう促す取り組みを日常的に行っている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々の暮らしは利用者を優先とすることを基本とし利用者のペースに合わせ希望に添った支援を行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりの希望に合わせ、理容、美容院への送迎等の支援をしている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の好みや味付けには出来るだけ個々人の意向を聞いて合わせるようにしている。調理や片付けも入居者と一緒におこなっている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	時々お酒を楽しんでいる方もいます。また喫煙室が設けられており、職員の見守りにて楽しめるようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導を含めたトイレでの排尿や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個別に見守りで入浴 プライバシーにも留意しながら残存機能を考慮し、出来ない部分のみ一部介助しながら入居者の希望時間や順番に合わせて支援を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の睡眠パターンを把握し 入眠できない個人に対しては、その人本来のリズムを取り戻せるように生活のアプローチをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	料理好き、話し好き、歌好きと夫々の個性で共同し役割分担、それにより入居者間の交流が活発化され楽しみへ繋がっている、その中にスタッフはスムーズに行えるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	できる限り自由に使えるように支援している。金銭管理、領収書その用途は付家族、本人に説明し月一回出納を明らかにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○日常的な外出支援</p> <p>61 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>暖かい日の外出等、本人の望みを取り入れ積極的に外に出る機会を多く取り入れている。</p>		
<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>62 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>地域の行事や花火大会、湖水祭りに出かけたリドライブを兼ねレストランで食事会を行ったりと、楽しい機会作りをしている。</p>		
<p>○電話や手紙の支援</p> <p>63 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>手紙や電話は自由に利用している 居室に個別に電話を持っている人もおりプライバシーも守られている。</p>		
<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>64 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>家族や友人、知人訪問には、気軽に居心地良く過ごす事が出来る様家庭的な雰囲気を作っている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>65 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、全職員が理解されており拘束しないケアに取り組んでいる。</p>		
<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>66 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中、玄関や居室に鍵を掛けることはない、入居者本人が鍵を掛けることはある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は常に入居者の居場所を把握しており、一緒に居て見守りがおこなわれている。夜間は定時の巡回、起床時には見守り、介助等を行い安全に配慮した支援を行っている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>薬、洗剤、刃物は安全に管理されている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>危険性高い利用者に対して介護スタッフは日々の連携の中で共有しながら注意を払う様になっている。常にスタッフも知識を得るために研修会等へ参加している。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>講習会へ出席したり、研修会参加により全スタッフが応急手当を行える様常に学習を積んでいる。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回の消防署の協力で、火災訓練を実施している。また町内会や他の施設からの協力を頂き入居者の安定に役立っている。今後とも理解を拡げる働きかけを行っている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>起こりうるリスクについて 入居時家族へ説明を行い理解を得ている。随時介護スタッフと、対応策の話し合いをおこなっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、血圧測定や熱をはかり早期発見に留意している。少しの異変に対して早急の対応への体制をとり、毎日のミーティングにて介護スタッフ間共有し、記録を残している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示の通り内服されている。介護は全ての入所者の薬の目的や副作用、用法、用量について薬の説明書に目を通す指導を受けている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	内服薬使用することもあるが、出来る限り食品の内容、水分、運動により改善されるよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後歯磨き、義歯手入れ、うがいの促し等で口腔内の衛生を保てるよう支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、必要量を踏まえて毎日摂取量等確認を実施している。季節の野菜などを取り入れ栄養バランスに考りようしている。飲水量等も把握し必要量の飲水できるように工夫して支援行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	インフルエンザ、MRSAノロウイルス等のマニュアルを備えている。手洗いうがい等取り決めた事を確実にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日台所は除菌、清掃を行っており食材については常に鮮度に配慮しながら衛生管理に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関には階段の手すりやスロープが設置されており、入居者や来訪者は安心して出入りが出来ている。また周囲には花壇が作られ季節の花が植えられている。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>いつでもその場に合った音楽が流され穏やかな時間を過ごされている。また季節に合った花を飾ったり季節行事(しめ縄、ひな人形など)を飾ることで季節感を採り入れている。</p>		
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用空間は数箇所用意されているが、カラオケやゲーム、テレビ鑑賞、談笑の場、あるいは量の部屋など、入居者の好みや気分に応じ思い思いに過ごせるような工夫をしている。</p>		
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた生活用品が持ち込まれ、できる限り不安やストレスを解消し居心地良く過ごせるように工夫している。</p>		
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>入居者の体調を考えながら、湿度、温度調整は外気温に注意しこまめに行っている。またホーム内には気になる空気のおよみはないと思われる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部は、バリアフリー、手すり、滑り止めの取り付け、車椅子の移動、浴室の安全工夫など自立した生活が送られるように整備されている。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自分の居室を解りやすくするためにドアの色を変えたり花、飾り絵などの目印をつけている。トイレ食堂には場所の目印でわかりやすいように工夫している。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前に花壇が設置され、四季折々の花が植えられている。またベランダ前には野菜畑がありジャガイモ、豆、トマト、ほうれん草などが植えられ草取りに汗したり、収穫を共に喜んだりしながら楽しい時間を過ごしている。</p>		



V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>	利用者一人ひとりの歴史や環境、家庭関係を考慮し個人の意志を尊重した対応している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>	お茶の時間や食事は共にゆっくりと食べ、時間の空いた時は、本の読み聞かせを行ったり、それぞれ好みの場所で談笑したりと楽しい時間を過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	起床日中、就寝時等一人ひとりのペースで自由に活動しながら自分らしい生活されている利用者同士の交流も自由にされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	日々利用者の様子観察することで、少しの変化に気付くようにしている。さりげない声掛けや気持ちを察することで、不安無く安心して過ごされている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	春は遠足、日々の外出、ドライブ、食事会、買い物などその都度希望を聞くことで実行している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	毎日のバイタルチェック、様子観察行い、地元病院との連携しており、いつでも診察、治療可能対応されており不安なく対応できている。服薬管理しており、確実に内服支援行っている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	日々の利用者の状況や希望、訴えには適宜対応している。特に被害妄想、帰宅願望など強い訴えにもしっかりと傾聴することで安心されている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>	面会時や電話などで意見を聞いたり話を聞く機会を持っており、御家族も率直に意向を表わしてくれ良い関係保たれている。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>	友人、知人、を初め、こどもから老人間でさまざまな方が訪れてくれている。定期的に園児や生徒、またカラオケサークル、茶道の方々に来て楽しんでいる。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①大いに増えている</li> <li>②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くない</li> </ul>	運営協議会の方々の協力を通して様々な分野の方々の協力をえています。「かやのみ」主催の夏祭りでは、地域住民ボランティアなど、300名を超える人々の参加あり参加者は増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての職員が</li> <li>②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	「職員は、親切でいねい、何時も笑顔で、明るく」をモットーに利用者に対応している。仕事内容、職員間の問題に対しては、随時改善できるように連絡報告を密にし穏やかな関係づくりをしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	日々の関わり尊厳のある対応に安心感と喜びを表わしていることが多い。細かな配慮、サービスに満足されていると思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①ほぼ全ての家族等が</li> <li>②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	利用者の方々の一人ひとりに合ったケアの取り組みされ、家族からも意見、要望を求めたり、報告連絡取り合い同意を得ており納得されていると思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 高齢になってから、この地住み、お互いに心配したり喜びあったりと、知らぬ同士が共に支えあって生活されている利用者一人ひとりの繋がりをサポートしながら関係づくりを大切に支援して行きます。